

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 4月 3日

2階 3階共通

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2775004902		
法人名	社会福祉法人 美正福祉会		
事業所名	グループホーム サニーハウス		
サービス種類	介護予防・認知症対応型共同生活介護事業		
所在地	〒577-0034 東大阪市御厨南二丁目6番11号		
自己評価作成日	平成 22年 3月 10日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

【事業所基本情報】

① 介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	
② 情報提供票を活用する場合	別紙情報提供票のとおり

① 基本情報リンクURLを記入 ② 別紙情報提供票のとおり

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
所在地	〒546-0035 大阪市東住吉区山坂五丁目5番14-103号
訪問調査日	平成 22年 3月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設して5年が経過し入居者の方々の心身の状態も重度化してきているが、回転寿司や喫茶等の外食や、緑地公園への遠足、花見等可能な限り外出を取り入れている。また、ボランティアを活用しレクリエーションの充実を図っている。各ユニット毎での活動ではなく、ユニット同士の交流を図る意味も込めて入浴をフロアで行い同時に合同でのレクも行っている。ラジオ体操や脳トレといった学習療法も少しずつ取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ホームは開設して今年の6月に5年目となるが、母体法人の八戸ノ里病院の指導、診察等があり、利用者、ご家族とも介護については、安心して楽しく生活を送っている。
ホームの1階でデイサービスを運営しており、よく開催されるボランティアによる、手品、歌体操、音楽会等には、仲良く合同で楽しんでいる。
職員11名のうち、開設時からの職員が8名で、介護経験5年以上の者が9名、職員の退職者も年に1～2名程度で少なく、毎日の介護は安定している
2ヵ月ごとに開催されている運営推進会議での質疑の中で、ご家族の委員を含めて各委員から、ご意見、提案等があり、介護に活用されている。
特に管理者は、利用者の喜怒哀楽の精神的な面を尊重し、一人ひとりに対応して行けるよう、職員と検討を加えながらケアプランを作成している。
更に職員は、利用者との毎日一緒に生活の中から症状の気づきの観察を記録し、改善計画の基となるように努めている

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有については前回から評価時において指摘されていた為、周知できるように準備し機会を作るようにしている	毎月第4木曜日に定例で職員会議を開催し、理念の実践を指導している	
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として、日常的に交流している	夏祭り等に参加している。他施設からの参加要請も頂いているが、現在、参加できていない	地元役員さんとの交流が出来ていて、行事等の参加をさせてもらっている	
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や、支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会会長び推進会議時に助言等頂いている。包括支援センターから地域の方々の見学依頼があり実施した	/	/
4	3	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・包括支援センター職員・他施設施設長より会議時意見・助言頂いている	ホームの経過報告と参加委員さんとの質疑応答があり。委員さんより地区でのボランティア活動の紹介を頂いている	
5	4	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明なこと、判断に困ることがあれば電話で相談したり、訪庁し指導・助言をいただいている	市役所とは訪問、電話等での連携は常に行なっており、各種の指導、助言を頂いている	
6	5	○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて、身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則施行しないことにしているが、必要不可欠な場合に限り、承諾書及び、医師の指示において行えるようにはしている。玄関の施錠は、時々開放している	エレベーターホールは已むをえず施錠している。その他の身体拘束については、ご家族と話合っているが、殆ど行っていない	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○ 虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為は無いが、虐待に繋がるような言動等あれば直ぐに注意している		
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度や事業について必要であれば、家族に情報提供をおこなっている		
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改訂の際は事前に説明をし、同意書を頂いている。随時説明を行っている		
10	6	○ 運営に関する利用者、家族等の意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員、並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議にて家族代表より出た意見を職員会議時に報告している。また、家族面会時に出た意見も同等に職員会議時に報告し検討している	運営推進会議でご家族代表者のご出席をいただき、ご発言を頂いて、介護に活かしている	
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や、提案を聞く機会を設け、すれらを反映させている	職員会議時に意見を聞いている	定例の職員会議では自由な発言があり、役立たせている	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件については職員より意見等をもらい、シフト上に反映し、個々の行動・努力を考課時に評価し意欲向上に努めている		
13		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者、管理者は時間があれば現場と一緒に入り指導・助言を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○ 同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域の同業者の連絡会で情報交流の取り組みを行って、介護向上に活かしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○ 初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	利用開始前の面談時に困っていること、不安なことをしっかり聞いて良い関係を築けるように努力している		
16		<p>○ 初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	利用開始前の面談時に困っていること、不安なことをしっかり聞いて良い関係を築けるように努力している		
17		<p>○ 初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	他の社会資源の活用を含めた対応を考えて行っている		
18		<p>○ 本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を支援される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	努力してはいるが、暮らしを共にする者同士の関係の成立はできていない		
19		<p>○ 本人と共に過ごし支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	家族来所持に現況報告を行っている。家族に現況を知って理解して頂き共に入居者の方の問題等を考えていけるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援	入居者の方々の知人や友人・家族の面会時に声を掛け継続的に来て頂けるように努めている	電話の取り次ぎや、郵便についても便宜を図っている	
		本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
21		○ 利用者同士の関係の支援	入居者間でのコミュニティの形成が出来ているが、孤立している方に対してはフロアーの移動、座る場所の工夫等をしている		
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			
22		○ 関係を断ち切らない取り組み	契約が終了しても家族や本人の状況について他機関と情報の共有を行っている事例がある		
		サービス利用（契約）が終了しながら、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○ 思いやり意向の把握	本人本位での処遇を常に頭に置いて業務を行ってはいるが職員本位の所もまだまだ見られる	管理者は、利用者の意向把握を重視し、職員を指導している	
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
24		○ これまでの暮らしの把握	過去の生活歴や習慣について面談時、入居後の家族面談時等情報収集を行ってサービスの提供に活用している		
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○ 暮らしの現状の把握	一日2回のバイタルチェックを行っている。また、起立時、歩行時等に観察を密にし状況の把握に努めている		
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の、現状の把握に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング	カンファレンスを行い収集した情報を検討し職員個々の意見を反映し計画を立案・実施している	チームによる利用者の現状把握に努めている	
		本人がより良く暮らすための課題と、ケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			
27		○ 個別の記録と実践への反映	行動計画実施記録に記録し実践・見直しに活用している	/	/
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	サービスの多機能化に結びつくように取り組んでいる	/	/
		本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援や、サービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○ 地域資源との協働	安全・安楽に過して頂けるように努力している	/	/
		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○ かかりつけ医の受診診断	協力病院への受診や救急搬送の説明を事前に説明し理解している	母体である八戸ノ里病院から医師による、月2回の往診があり、歯科は毎週、往診がある	
		受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
31		○ 介護職員との協働	現場の職員同士で都度意見交換しよりよい処遇が行えるように支援している	/	/
		介護職員は、日常の関わりの中で、とらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		<p>○ 入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	協力病院との連絡をしっかりと取り連携を強化している			
33	12	<p>○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	地域の関係者とのチームアプローチはしていないが、終末期になった時のことを想定し早めに家族と相談している	職員の情報交流と研修に配慮して、指導を行っている		
34		<p>○ 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	定期的に消防署の方に来ていただき応急処置の講習を受けている			
35	13	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を、全職員が身に付けると共に、地域との協力体制を築いている</p>	年2回の消防訓練を行っている。一回は消防立会いの下行っている。平成21年は一回しか出来なかった	直近の火災事故のこともあり、消防署の指導もあって職員一同、訓練と防災の確認をしている		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	<p>○ 一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りや、プライバシーを損ねない言葉かけや、対応をしている</p>	時々、口調が荒いときが見受けられる。都度注意している	職員同士による相互に注意しあっている。地区の他のホームとの連絡会でも、検討項目として情報交流を行った		
37		<p>○ 利用者の希望の表出や、自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が、思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	入居者の自己決定は可能な方はしていただいているものの、職員が決定していることが多々ある			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースを大切にし希望に沿うように支援できるように努力しているが職員の都合になっていることが多い		
		○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るように支援している	日常の更衣等職員が配慮しながら行っている		
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々準備を手伝ってもらっている。片付けについては可能な方は手伝って頂いている	利用者の手伝いは、少数の方々となって来ている	
		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表や水分摂取表を記入し摂取量を把握している。往診時それらのチェック表を医師に見せている		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前は嗽をし、食後に口腔ケアを実施している。毎週金曜日の歯科往診医師と連携し支持・助言を頂いている		
		○ 排泄の自立支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを調べ、誘導を行っている。個々にあった衛生材料を使用している	ご家族の費用負担減のため、購入品の使用を少なくするよう、職員一同で配慮している	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や、及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールについては、医師・看護婦と連携し調節している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように、職員の都合で、曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	以前は毎日朝から晩まで入浴可能にしていたが、入居者の重度化に伴い日中のみの入浴になっている。現在、入浴介助業務について検討中	利用者の症状の変化に合わせて、入浴回数、時間等に、対応している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている	薬の副作用等については看護師より常時説明をうけている。誤薬が無いように確認を怠らないように指導している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限りレクを取り入れ外出等の気分転換を行えるように努力しているが不完全である		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠足等の外出時には予め家族に協力を要請している。その日その日の希望によつての外出は出来ていない	ホーム周辺の道路の歩道と車道の区分が十分でないので、日常の散歩に難しい点がある	少しの時間でも見付けて、回数を増やしてあげて欲しい
50		○お金の所持や、使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	お金は一括管理しており管理規定に沿って管理している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように支援している	手紙や電話のやりとりは自由に行っている		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、温度など)が無いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁画や前月のレクの写真を掲示して行っている。不快感を与えるような物は置いている	共用空間は日当たりが良く、広く明るい雰囲気となっている。清掃も行き届いている	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で工夫している		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただいている。状態の変化があった場合は家族と相談し居心地良く過ごせるように工夫している	各自が、ご家族との合意で自由に家財道具を置いている	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるようにしている		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		① ほぼ全ての利用者の
		○	② 利用者の2/3くらいの
			③ 利用者の1/3くらいの
			④ ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		① 毎日ある
			② 数日に1回程度ある
		○	③ たまにある
			④ ほとんどない
58	利用者は一人ひとりのペースで暮らしている		① ほぼ全ての利用者が
		○	② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている		① ほぼ全ての利用者が
			② 利用者の2/3くらいが
		○	③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		① ほぼ全ての利用者が
			② 利用者の2/3くらいが
		○	③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	① ほぼ全ての利用者が
			② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	① ほぼ全ての利用者が
			② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており、信頼関係ができています	○	① ほぼ全ての家族と
			② 家族の2/3くらいと
			③ 家族の1/3くらいと
			④ ほとんどいない
64	通いの場やグループホームに、馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		① ほぼ毎日のように
			② 数日に1回程度
		○	③ たまに
			④ ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		① 大いに増えている
		○	② 少しずつ増えている
			③ あまり増えていない
			④ 全くない
66	職員は生き活きと働けている		① ほぼ全ての職員が
		○	② 職員の2/3くらいが
			③ 職員の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う		① ほぼ全ての利用者が
		○	② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに、おおむね満足していると思う		① ほぼ全ての家族が
		○	② 家族の2/3くらいが
			③ 家族の1/3くらいが
			④ ほとんどいない